

### 3 年齢階級別の自殺者数の推移

年齢階級別の自殺者数の推移について、自殺統計をみると（第1-5図）、全体的に減少傾向にあり、60歳以上（注）が最も多く、50歳代、40歳代が多くなっている。

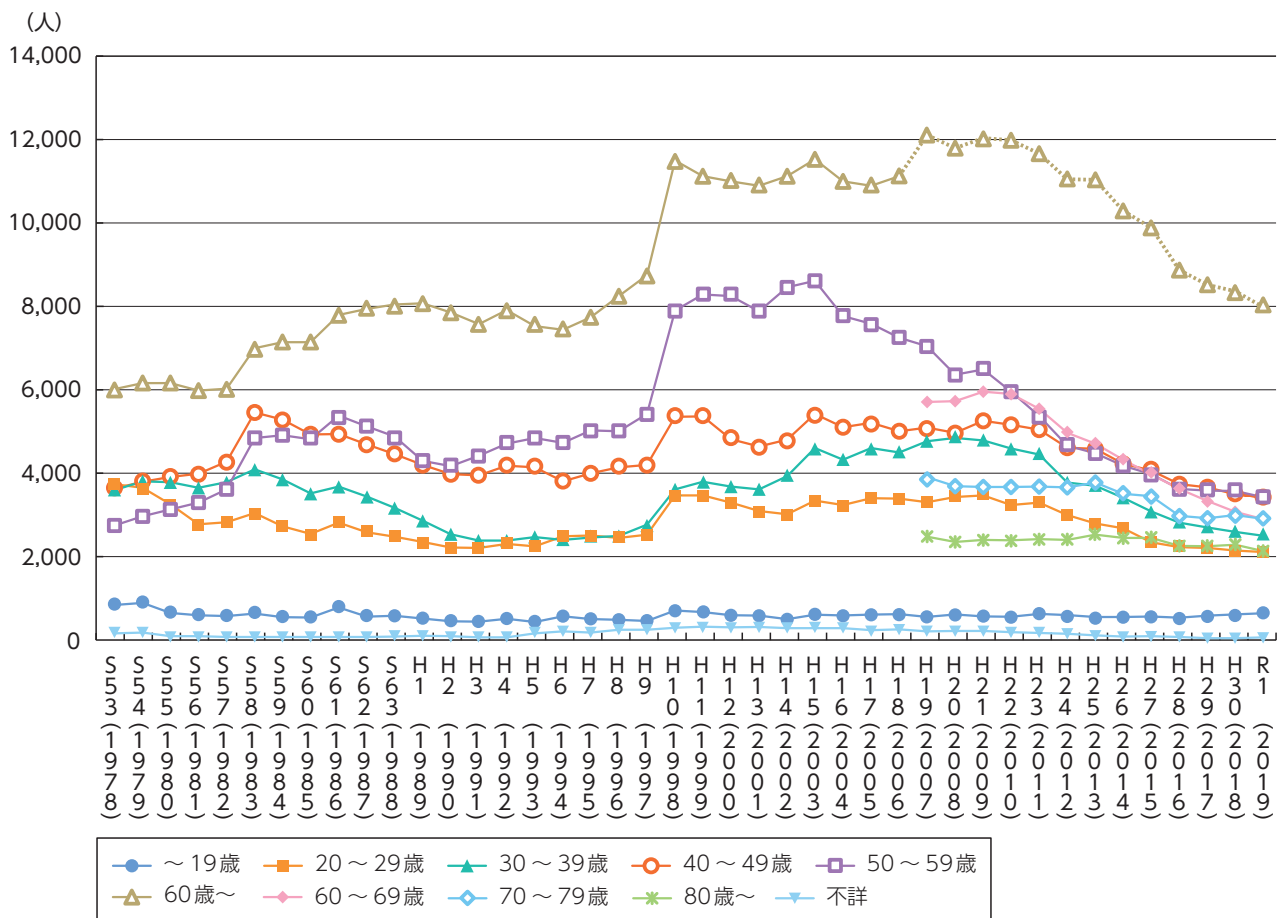
年齢階級別の自殺死亡率の推移をみると（第1-6図）、平成10年の自殺者数急増に伴い自殺死亡率も上昇したが、近年は全体的に低下傾向にある。

特に、40歳代、50歳代、60歳以上は、ピーク時から大幅に低下している。一方、20歳未満では平成10年以降おおむね横ばいで、20歳代や30歳代は、ピーク時から低下がみられるものの、減少率は40歳代以上と比べて小さく

なっている。また、40歳代、50歳代、60歳以上は、急増以前の水準より低下している一方、20歳未満及び20歳代は急増以前の水準に戻っていない。

さらに、男女別にみると、男性は、40歳代、50歳代では15年まで上昇傾向にあったが、16年以降は低下傾向にある。一方、20歳代が上昇傾向にあったが、23年以降は低下を続けており、30歳代は15年に更に高まった後、そのまま高止まりしていたが、22年以降は低下している。女性は、20歳代、30歳代、40歳代では上昇傾向にあったが、24年以降は低下傾向にある。

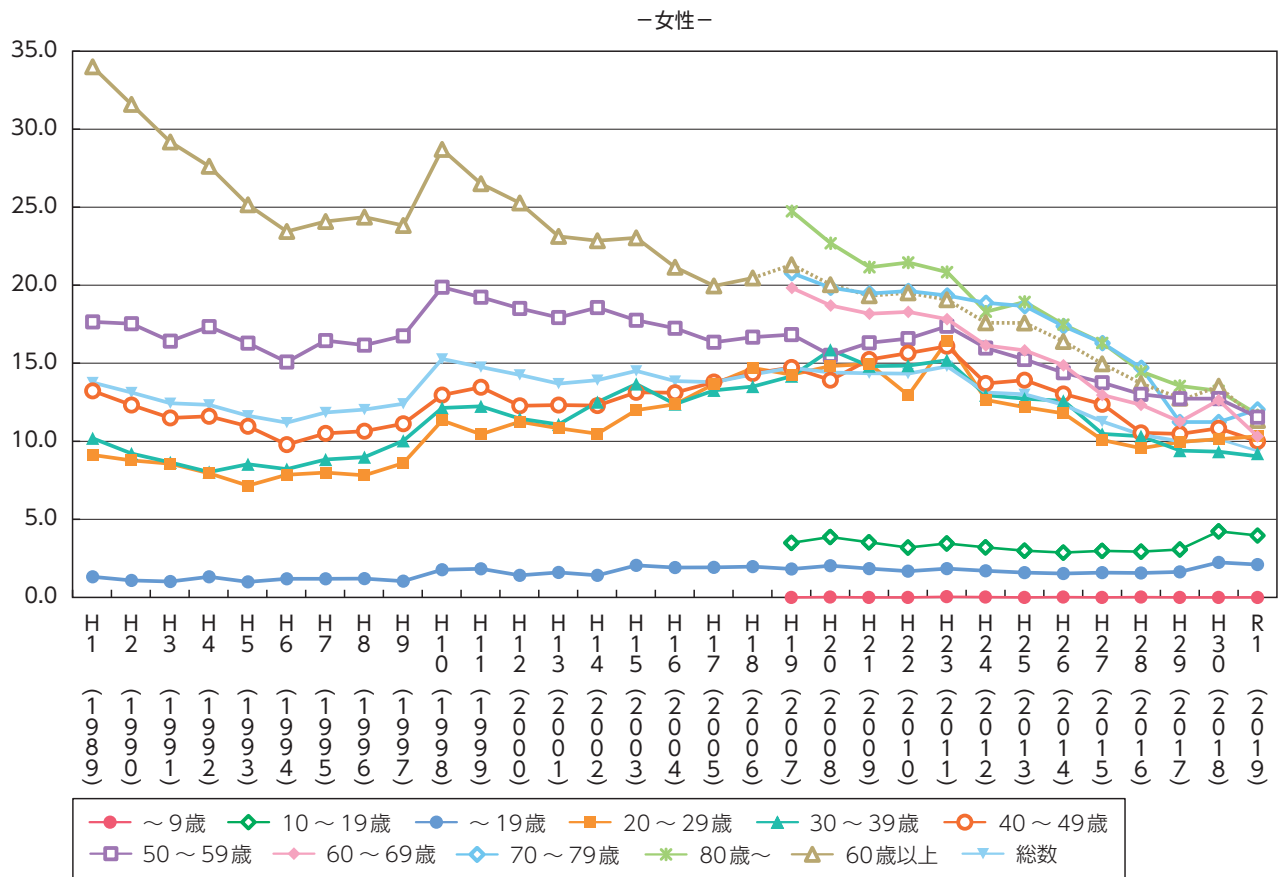
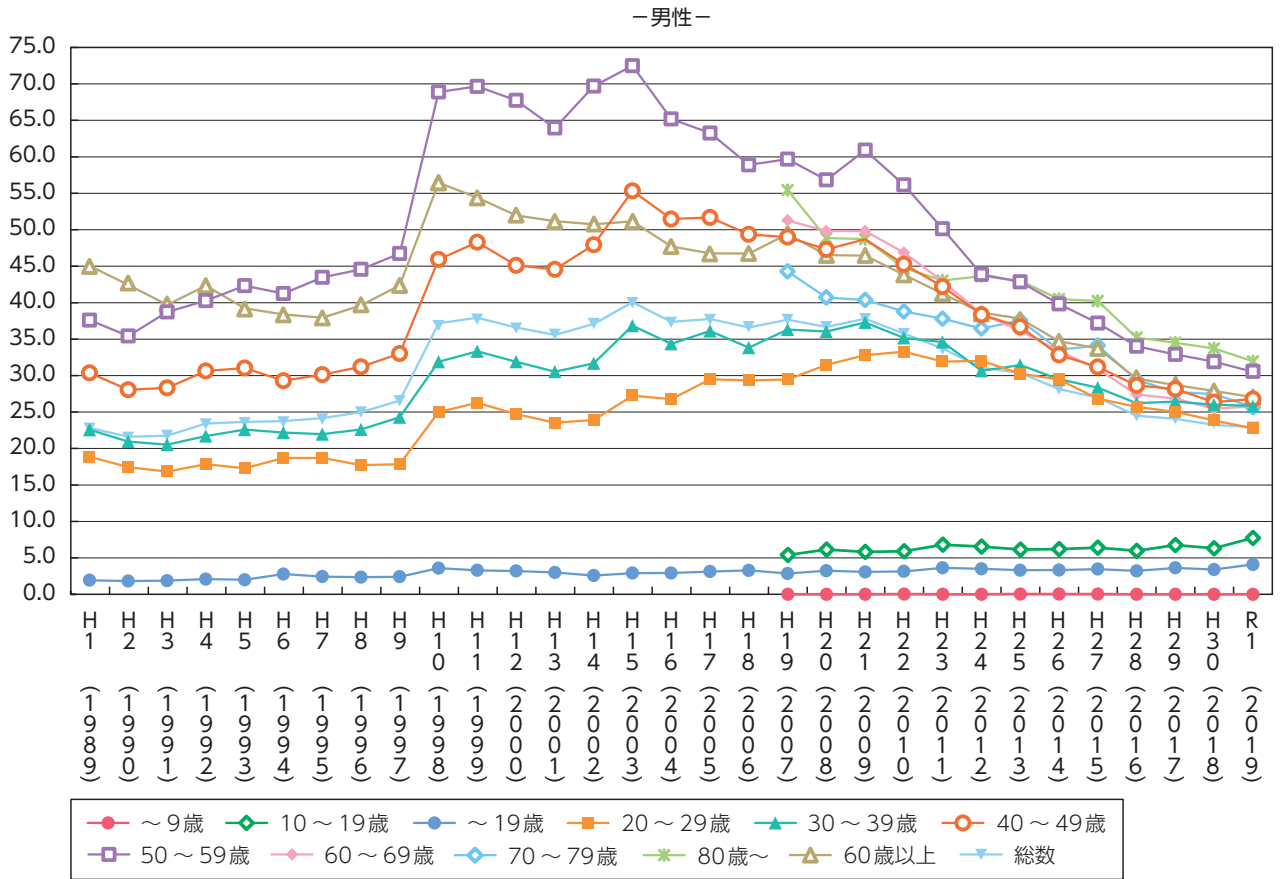
第1-5図 年齢階級別（10歳階級）の自殺者数の推移



注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」に細分化された。

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成





注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60~69歳」「70~79歳」「80歳以上」に細分化された。  
 資料：警察庁「自殺統計」、総務省「人口推計」(国勢調査実施年は国勢調査人口による)より厚生労働省自殺対策推進室作成

我が国における若い世代の自殺は深刻な状況にある。年代別の死因順位をみると（第1-7表）、15～39歳の各年代の死因の第1位は自殺となっており、男女別にみると、男性で

は10～44歳において死因順位の第1位が自殺となっており、女性でも15～34歳で死因の第1位が自殺となっている。

第1-7表 平成30年における死因順位別にみた年齢階級・性別死亡数・死亡率・構成割合

### 総数

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	悪性新生物	114	2.1	24.6	自殺	99	1.9	21.4	不慮の事故	65	1.2	14.0
15～19歳	自殺	503	8.7	44.0	不慮の事故	239	4.1	20.9	悪性新生物	111	1.9	9.7
20～24歳	自殺	1,045	17.5	52.1	不慮の事故	314	5.3	15.7	悪性新生物	160	2.7	8.0
25～29歳	自殺	1,059	18.0	47.8	不慮の事故	257	4.4	11.6	悪性新生物	240	4.1	10.8
30～34歳	自殺	1,235	18.5	39.7	悪性新生物	533	8.0	17.1	不慮の事故	304	4.5	9.8
35～39歳	自殺	1,288	17.2	27.9	悪性新生物	1,086	14.5	23.6	心疾患	420	5.6	9.1
40～44歳	悪性新生物	2,517	28.2	30.2	自殺	1,574	17.6	18.9	心疾患	911	10.2	10.9
45～49歳	悪性新生物	4,698	49.4	33.6	自殺	1,816	19.1	13.0	心疾患	1,719	18.1	12.3
50～54歳	悪性新生物	7,383	89.7	37.9	心疾患	2,436	29.6	12.5	自殺	1,854	22.5	9.5
55～59歳	悪性新生物	11,693	154.8	42.7	心疾患	3,348	44.3	12.2	脳血管疾患	2,008	26.6	7.3
60～64歳	悪性新生物	20,146	267.8	46.5	心疾患	5,328	70.8	12.3	脳血管疾患	2,958	39.3	6.8

### 男

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	自殺	66	2.4	24.8	悪性新生物	59	2.2	22.2	不慮の事故	34	1.2	12.8
15～19歳	自殺	307	10.3	41.1	不慮の事故	183	6.1	24.5	悪性新生物	76	2.6	10.2
20～24歳	自殺	742	24.2	52.8	不慮の事故	254	8.3	18.1	悪性新生物	101	3.3	7.2
25～29歳	自殺	761	25.3	50.1	不慮の事故	191	6.3	12.6	悪性新生物	130	4.3	8.6
30～34歳	自殺	920	27.0	44.6	不慮の事故	239	7.0	11.6	悪性新生物	224	6.6	10.8
35～39歳	自殺	966	25.4	32.7	悪性新生物	430	11.3	14.6	心疾患	322	8.5	10.9
40～44歳	自殺	1,132	24.9	21.6	悪性新生物	1,003	22.1	19.1	心疾患	717	15.8	13.7
45～49歳	悪性新生物	2,052	42.6	23.4	心疾患	1,340	27.8	15.3	自殺	1,295	26.9	14.8
50～54歳	悪性新生物	3,534	85.1	28.1	心疾患	1,942	46.8	15.4	自殺	1,319	31.8	10.5
55～59歳	悪性新生物	6,430	170.1	35.1	心疾患	2,724	72.1	14.9	脳血管疾患	1,401	37.1	7.7
60～64歳	悪性新生物	12,666	341.0	42.2	心疾患	4,194	112.9	14.0	脳血管疾患	2,062	55.5	6.9

### 女

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	悪性新生物	55	2.1	27.9	自殺	33	1.3	16.8	不慮の事故	31	1.2	15.7
15～19歳	自殺	196	6.9	49.5	不慮の事故	56	2.0	14.1	悪性新生物	35	1.2	8.8
20～24歳	自殺	303	10.4	50.5	不慮の事故	60	2.1	10.0	悪性新生物	59	2.0	9.8
25～29歳	自殺	298	10.3	42.7	悪性新生物	110	3.8	15.8	不慮の事故	66	2.3	9.5
30～34歳	自殺	315	9.6	30.0	悪性新生物	309	9.4	29.5	不慮の事故	65	2.0	6.2
35～39歳	悪性新生物	656	17.8	39.6	自殺	322	8.8	19.5	脳血管疾患	102	2.8	6.2
40～44歳	悪性新生物	1,514	34.5	48.9	自殺	442	10.1	14.3	脳血管疾患	209	4.8	6.8
45～49歳	悪性新生物	2,646	56.5	50.5	自殺	521	11.1	9.9	脳血管疾患	433	9.2	8.3
50～54歳	悪性新生物	3,849	94.4	55.7	自殺	535	13.1	7.7	脳血管疾患	509	12.5	7.4
55～59歳	悪性新生物	5,263	139.4	58.0	心疾患	624	16.5	6.9	脳血管疾患	607	16.1	6.7
60～64歳	悪性新生物	7,480	196.5	56.1	心疾患	1,134	29.8	8.5	脳血管疾患	896	23.5	6.7

注) 構成割合は、それぞれの年齢階級別死亡数を100とした場合の割合である。

資料：厚生労働省「人口動態統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

こうした状況は国際的にみても深刻であり（第1-8表）、15～34歳の若い世代で死因の第1位が自殺となっているのは、先進国（G

7）では日本のみであり、その死亡率も他の国に比べて高いものとなっている。

**第1-8表 先進国の年齢階級別死亡者数及び死亡率（15～34歳、死因の上位3位）**

	日本 2015				フランス 2014				ドイツ 2015				カナダ 2013			
	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	
第1位	自殺	4,132	16.3	事故	1,985	12.9	事故	1,724	9.0	事故	1,868	19.6	事故	1,012	10.6	
第2位	事故	1,633	6.4	自殺	1,224	7.9	自殺	1,426	7.5	自殺	1,012	10.6	自殺	1,012	10.6	
第3位	悪性新生物	1,300	5.1	R00-R99※	966	6.3	悪性新生物	1,033	5.4	悪性新生物	513	5.4	悪性新生物	513	5.4	

	アメリカ 2015				イギリス 2015				イタリア 2015				韓国（参考） 2015			
	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	
第1位	事故	34,005	38.7	事故	2,596	15.3	事故	1,342	10.5	自殺	2,237	16.3	自殺	2,237	16.3	
第2位	自殺	12,438	14.1	自殺	1,255	7.4	悪性新生物	794	6.2	事故	1,152	8.4	事故	1,152	8.4	
第3位	殺人	9,593	10.9	悪性新生物	1,060	6.3	自殺	530	4.1	悪性新生物	835	6.1	悪性新生物	835	6.1	

※ICD-10（疾病及び関連保健問題の国際統計分類の第10回修正版）の第18章「症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」に該当するもの

注）「死亡率」とは、人口10万人当たりの死亡者をいう。

資料：世界保健機関資料（2018年9月）より厚生労働省自殺対策推進室作成